

令和5年度 清原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- (1) 基本目標
①活力ある生徒 ②よく考え、創造する生徒 ③豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
- (2) 具体目標（具体的な生徒像な）
①頑張る人 ②考える人 ③思いやりのある人

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

豊かな心と健やかな身体をもち、社会の変化に主体的に関われる能力や創造力を培い、自らの向上とより良い社会の発展を目指し、国際社会に生きる人間性豊かでたくましく生きる生徒を育成する。

3 学校経営の方針

- (1) 教職員の和を基調とし、「教師が変われば、生徒も変わる」を信条に、師弟同行の実践を踏まえ、「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導に徹する。
- (2) 知・徳・体の調和を図り、各教科等において基礎・基本、体験的な学習や課題学習、個に応じた指導を重視し、自ら学ぶ態度を育成する。
- (3) 緑に恵まれた環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努める。
- (4) 道徳教育・人権教育・国際理解教育の充実と各教科、総合的な学習の時間、特別活動等の特質に応じた指導の深化を図り、生徒の活力を醸成する。
- (5) 一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、進路に関する情報を収集・活用し自らの生き方を探求するとともに、進路の選択・決定ができるよう、学校、家庭及び地域社会との連携を密にしながら、指導・支援に努める。
- (6) 教職員の働き方の推進に向けて、生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減のために、日課の工夫やITを活用した業務の効率化を図る。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成 2 ndstage
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

本校教育目標を達成するため、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階と特性等を十分考慮し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成が図れるよう各教科等の指導内容、指導形態、時数等の相互の関連を考慮し、教育課程を編成する。その際、学力の基礎・基本の定着、心の教育、健康安全の確保、地域とともにある学校づくりに留意する。

5 今年度の重点目標 ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学校運営 】

- ・活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進
「前向きな気持ちをもって、粘り強く」をモットーとして
- ・「社会に開かれた教育課程」の理念に基づいた「地域とともにある学校づくり」の推進
創立75周年記念事業関連の活動を活用して
- ・ゆとりをもった計画立案・共通理解や教育活動の精選による生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減

【 学習指導 】

- ・「宇都宮モデル」（「はっきり」、「じっくり」、「すっきり」）の各過程の指導の質的向上
- ・学習に1人1台端末などを活用しながら自主的・主体的に取り組み、他者との対話を通して、自らの学びを深めることができる生徒の育成

【 生徒指導 】

- ・「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導の充実
 - ・思いやりをもち、認め合い、助け合いながら良好な人間関係を築ける生徒の育成
- ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進・ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止

【 健康（体力・保健・食育・安全） 】

- ・自らの命を守り抜くための危機予測・回避能力の育成
- 健康教育及び安全教育を推進することによる、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1－（1） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①学習の3つの決まり・チャイム着席・きちんと起立、礼・指名されたらハイの徹底を図る。 ②4月に配付した「きよはら学習ガイド」を通年で活用し、学習態度や学習の進め方を指導する。 ③授業中は、教師の指示や説明を集中して聞くようにさせるとともに、落ち着いた学習環境作りに努める。 ④グループで話し合う場面や発表する場面を意図的・計画的に設定し、主体的に学習に取り組むようにさせる。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は90.0％で数値指標と同じであった。 【次年度の方針】 年度初めに、学習の決まり事「チャイム着席、きちんと起立、礼、指名されたらハイ」の確認を行い、徹底を図る。 新入生に対しては、「きよはら学習ガイド」を活用し、家庭学習の推進を図る。話の聞き方、話し合いの仕方、発表の仕方などの基本的な学習態度、学習技能の育成を図る。 「自主学習ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示、A1ドリの活用などにより、一歩踏み込んだ毎日の家庭学習を習慣付ける。
1－（2） 豊かな心を育む教育の推進	○A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①道徳科の授業で思いやりについて考えさせ、日常生活において思いやりの心を態度で示す道徳実践力を育む。 ②全教職員は、日常的に生徒の言動に気を配り、ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし、ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。 ③給食活動や清掃活動などの当番活動や係活動において、互いの役割を尊重する意識を高める。 ④生徒の活動をしっかりと観察し、思いやりあふれる行動を日常的に称賛する。 ⑤学校行事後は、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くとともに、お互いに認め合えるようにする。 ⑥保護者や地域住民にも、学校ホームページを活用し、思いやりある行動を広報する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は91.4％で数値指標を1.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 特別の教科道徳の授業で思いやりの心について考え、学校行事、当番活動、清掃活動などで、道徳実践力を育むとともに、教職員が望ましい言動の模範を示し、生徒の言動について日常的に気を配る。また、学校生活の中での、生徒の思いやりあふれる行動を称賛できるよう、生徒の活動をしっかりと観察する。 行事等の事後指導では、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くようにする。 保護者や地域住民にも、学校ホームページ等を活用し、思いやりのある行動を広報する。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①学級活動では、様々な職業の社会的役割や意義を理解させ、自己の生き方を考える指導を取り入れ、学習の意義や価値を考えさせたり、将来設計を行ったりできるよう指導する。 ②将来の目標に近づくための進路実現を目指して、計画的なテスト前学習に取り組ませ、テスト後の結果の振り返りに、粘り強く取り組ませる。 ③「生徒が前面に出る」ために、関わる教職員は成功体験させるための入念な準備を行い、「黒子」に徹することで、「見守り・見届ける」指導の充実を図る。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は86.6％（昨年度より1.6ポイント↓）で数値指標を3.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度も拡充項目とする。生徒の実態に応じた個別学習やグループ学習、繰り返し学習、習熟度別学習、生徒の興味・関心に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習など個に応じた指導の充実を図り、定期テスト等での成果が実感できるような指導を心がける。また様々な学校行事、校外活動、部活動等を通して、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組むことのできる生徒の育成を目指す。
1－（3） 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	○A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90％以上	①保健だよりや給食だよりを定期的に発行し、生徒へ健康や安全の重要性について周知する。 ②朝食や給食を残さず食べること、歯磨きに関する強化週間を設け、委員会等でも呼びかけを行うことで、健康や食生活に対する意識を高める。 ③安全教育の充実を図るとともに、実技や実験、実習作業を伴う授業においては、生徒自身の危機予測や危機回避などの資質能力を高めるよう、安全に配慮する指導を徹底する。 ④感染症流行時に換気を行いつつ、エアコン使用の適切な運営や熱中症計の設置、冬季には加湿器の設置を行い、熱中症や感染症の予防に努める。 ⑤避難訓練を年2回行い、注意すべき点や安全に関する講話をすることで、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は90.0％で数値指標と同じであった。 【次年度の方針】 引き続き、保健だより・給食だよりを定期的に発行し、生徒・保護者へ食育や健康の重要性について啓発したり、朝食の重要性に関する強化週間を設けたりして望ましい食習慣の育成を図る。 感染症予防については、マスク着用・手洗い・換気の指導等を継続していく。 教員の働きかけのみならず、より主体的に健康や安全に気を付けられるように促す。そのために、生徒が主体となって専門委員会等で対策を考え、呼びかけを行うなどの啓発活動を行う。 年2回の避難訓練や日頃の防災教育の充実を図り、災害安全や防災への関心をより高めさせる。
1－（4） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答85％以上	①学級活動や道徳で、自己を見つめ、自分が社会のためにできることは何か考えさせ、未来を担う社会人を目指して、夢や目標をもつことの大切さを理解させる。 ②地域の貢献や社会奉仕の意義を理解させ、ボランティア活動や地域行事に進んで参加できる態度を育てる。 ③地域未来会議や宇都宮学の授業などを通して、社会に参画し、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は89.3％で数値指標を4.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 学級活動や生徒会活動を通して、自己肯定感の育成を図る。地域行事や社会体験学習等を通して、地域貢献の意義、働くことの尊さを実感させ、主体的に自己の在り方や生活について考えさせる。また、「地域未来会議」や「宇都宮学」を通じて、地域の方々と世代を越えて、学校や地域の未来などについて議論することで、地域の発展に貢献しようとする態度を育てる。

2 - (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答85%以上	①英語の授業でALTやT2との活動の際、small talk を使って英語でコミュニケーションをとる場を計画的に設定する。 ②英語の授業で、教員が発する英語の指示に生徒が英語で反応する学習の場を多く設定する。 ③「ALTとコミュニケーション週間」を年に3回設定し、英語を積極的に使う機会を設ける。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は71.7%で数値指標を13.3ポイント下回った。 【次年度の方針】 普段の英語の授業から、自分や身の回りのことについて、英語で表現する機会（話す、書く）を多く設ける。その際、授業以外でも、ALTと積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。国際理解教育を通じて、異文化理解を進めながら、身近な人を尊重し、思いやりをもって接する態度を育てる。
	A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答80%以上	①各教科で地域の良さや学校の良さに触れる題材や学習場面を設定し、郷土に目を向けさせることで、宇都宮の良さに気付くようさせる。 ②「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。 ③学校給食では、郷土食や宮っ子ランチを教材にして、宇都宮の歴史や文化について考えさせ、郷土への愛情と誇りをもたせる。 ④「宇都宮学」の学習の様子をホームページや「学年だより」で発信したり、保護者会等で生徒が発表したりする場を設定する。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は84.1%（昨年度より0.7ポイント↑）で数値指標を4.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 引き続き「総合的な学習の時間」での「宇都宮学」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動の充実を図る。LRT「ライトライン」や郷土食などの地域の特長を生かしながら、カリキュラムマネジメントの視点から、教科横断的な学習の充実を図る。今年度同様、保護者会やオープンスクールなどで、生徒が発表・発信する機会を多く設けていきたい。
2 - (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答85%以上	①ICT教育チームを中心に、ICT支援員を有効活用し、校内のICT教育の体制を整え、教員のICT活用指導能力を高めていく。 ②教員は、各教科で少なくとも1回は図書室を活用した授業を行う。 ③授業参観や一人一授業の公開授業では、ICTや図書等を活用した授業を行う。 ④年度当初、タブレットの正しい活用の仕方を生徒に指導する。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は74.5%で数値指標を10.5ポイント下回った。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、拡充項目とする。ICT支援員と連携しながら、教員のICT活用指導能力を高める。定期テスト前の朝の読書の時間帯を利用するなどしてAIDリルの積極的な活用を目指す。 図書室の蔵書の更なる充実を図り、図書室での授業の活性化を図る。 オンライン学習のガイドラインを整備し、いろいろな事情により教室で学習できない生徒の学びの保障を図る。
2 - (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答80%以上	①「持続可能な社会」を目指すための目標(SDGs)についての掲示物やスライドを作成し、生徒に啓発する。 ②教室にプラスチックごみ箱、リサイクルボックスを設置し、持続可能な社会の実現に向けた行動に関心を高め、実行につなげる。 ③緑化委員会による学校敷地内の花壇の整備や松のこも巻き活動を通して、校内の緑化活動を推進する。 ④避難訓練を年2回行い、事後指導では、生徒全員の状況を丁寧に把握し、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は79.3%で数値指標を0.7ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き、「持続可能な社会の構築」について、教職員や生徒の意識を高める。各教科において「持続可能な社会」についての教材を扱う際に、本校の取組と関連付けすることで、生徒にも身近な課題として意識させる。また、防災についても触れる機会を増やしていく。 来年度は緑化・給食・美化・防災などの各委員会の活動内容で、「持続可能な社会」と関係したものを紹介する。
3 - (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答95%以上	①教育相談・特別支援教育部会において、生徒の状況についての情報を継続的に共有していくとともに、関係する学年・教職員との連携を図る。 ②特別な支援を必要とする生徒について、学校生活で配慮が必要な生徒に関して、校内でケース会議を開催し、チームで支援の方法を考える。 ③かがやきルームや適応支援教室の適正な運用を図る。 ④特別支援教育コーディネーターとSCMを中心に、特別な支援を必要とする生徒や配慮を要する生徒への対応方法に関する校内研修を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で数値指標を5.0ポイント上回った。 【次年度の方針】 特別支援教育コーディネーターとSCMを中心に、特別な支援を必要とする生徒や配慮を要する生徒への対応方法に関する校内研修を行っていく。かがやきルームや校内適応支援教室の活用の仕方について、共通理解を図るとともに、学級担任との連携を強化していく。また、教育相談・特別支援教育部会を中心に、情報の共有と、必要に応じて外部機関との連携を図る。
3 - (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答95%以上	①学級担任は、いじめを絶対に許さない毅然とした姿勢で学級経営を行うとともに、「個性」について考え、人との違いをより深く考えさせる場を道徳や学級活動等で設定する。 ○②全教職員は、日常的に生徒の言動に気を配り、ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進をし、ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止を徹底する。 ③いじめアンケートやQU検査の結果、日常の観察から、いじめの早期発見・早期解決を徹底し、未然防止に努める。 ④保護者会や学校・学年・生徒指導だより・HPなどで、いじめの未然防止について取り上げ、いじめ根絶に向けた本校の取組を発信する。 ⑤いじめゼロ強調月間には、特別の教科道徳の授業でいじめに関連する授業を全学級が実践し、いじめが許されない行為であることを指導し、未然防止に向けて考えさせる。また、全学級でいじめ根絶集会を行い、いじめ根絶につなげていく。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は95.4%（昨年度より1.1ポイント↑）で数値指標を0.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 いじめアンケートやQU検査の結果を活用し、定期教育相談等を活用し、いじめを見逃さず認知できるようにする。また、いじめゼロ強調月間には、特別の教科道徳の授業でいじめに関連する授業を実践し、いじめが許されない行為であることを指導し、未然防止に向けて考えさせる。また、生徒主体のいじめ根絶集会を年2回行い、いじめ根絶につなげていく。いじめ根絶に向けた本校の取組を、各種たより、ホームページ等を活用し、保護者、地域に積極的に発信する。

3 - (2) いじめ・不登校 対策の充実	A12 教職員は、不登校を生まない 学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答100%	①学級担任は、係活動や当番活動、授業中の発表などで生徒一人一人の取組の良さを見出し称賛することで、生徒にとって居がいのある学校生活となるような学級経営を行う。 ②教職員同士で生徒の望ましい言動を伝えあい、生徒の自己肯定感を高め、学校全体として生徒を見守り、見届ける指導をする。 ③保護者へ連絡をする機会に、生徒の良い点を意図的に伝えるようにする。 ④学級担任が学級の問題や課題を一人で抱えこまず、学年や全体で情報を共有し、組織的に対応策を考え取り組めるようにする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%（昨年度より2.0ポイント↑）で数値指標と同じ。 【次年度の方針】 日頃から自己肯定感を体感できる居がいのある学級経営を心がけるとともに、学級担任が学級の問題や課題を一人で抱え込まず、学年や全体で情報を共有し、組織的に対応策を考え、取り組めるようにする。 教育相談・特別支援教育部会を中心に、配慮生徒への情報を共有し、早期対応ができるよう、教職員が適切に連携していく。
3 - (3) 外国人児童生徒 等への適応支援 の充実 3 - (4) 多様な教育的 ニーズへの対応 の強化	A13 一人一人が大切にされ、活 気があり、明るくいいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①学校生活全般において教職員が意図的・計画的に生徒の頑張りと良さを認め、励まし、称賛する教育の推進を心がけ、生徒が自己有用感を実感できるようにする。 ②教職員一人一人が自信をもって自分の業務に取り組む、生徒と関わることで、学校全体が明るい雰囲気になるように努める。①生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばすようにし、生徒が前面に出るよう、見守り助ける指導にあたる。 ③生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばすようにし、生徒が前面に出るよう、見守り助ける指導にあたる。 ④学年主任は、学年の生徒たちが生き生きと活躍できる明るい雰囲気となるよう、各学年の諸活動を推進し、自分の学校に誇りをもてるようにする。 ⑤教職員は、業務を一人で抱えこむことなく、協働することで活性化を図る。業務を効率化させ、まずは教職員が活気に溢れ、明るくいいきとした雰囲気になる。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は94.9%で数値指標を4.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 次年度も引き続き拡充項目とする。 生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばしていく。生徒の頑張りを生かして、認め励ます指導を推進することから、善い行いや努力をみとる表彰を追加する。 学校全体がさらに明るい雰囲気となる諸活動を推進し、生徒が自分の学校に誇りをもてるようにする。 教職員がライフワークバランスを常に心がけるよう呼びかけ、心身ともに健康を維持できるようにする。
4 - (1) 教職員の資質・ 能力の向上	A14 分かる授業や生徒にきめ細 かな指導を行い、学力向上を図って いる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①主体的・対話的で深い学びに向けた指導の充実を図り、宇都宮モデル「はっきり！じっくり！すっきり！」の授業展開を目指す。「今日のめあて」を適切に提示して学習に見通しをもたせ、「振り返り」の時間の確保を徹底することで、学習の達成感をもたせ、分かる授業につなげる。 ②ペアやグループ学習を取り入れた対話的な活動やICTの活用や教材・教具を工夫するなど視覚的な活動を通して、個に応じたきめ細かな指導を図る。 ③テスト前に補習形式の質問教室を充実させ、個別の指導にあたる。 ④指導と評価の一体化を図りながら生徒の学習状況を把握することで、「努力を要する」生徒に対して適切な支援を行う。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は93.1%（昨年度より1.0ポイント↑）で数値指標を3.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 生徒の興味を喚起するような「今日の目標」の提示を行う。「一人一授業」「教科部会」などを通じて、情報交換を行い、授業の改善点や指導方法などについてアドバイスし合う。定期テスト、各種学力調査の結果を詳細に分析し、今後の教科指導に生かす。指導と評価の一体化を図り、生徒一人一人の良さを適切に評価し、生徒の資質・能力を伸ばす。
4 - (2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチ ームとなり、協力して業務に取り組 んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	①学校行事や諸活動では、目的や方法の共通理解を丁寧に行うことで、教職員全員が協力して業務に取り組む。 ②担当者による報告・連絡・相談を徹底し、必要に応じて全体への周知を図る。また、諸活動の実施後は取組の検証を行い、改善策次に生かすことで、チームとしての質の向上を図る。 ③生徒理解や配慮を要する生徒の適切な対応には、SCMを中心にSC、MS、学年や学級担任との連携を密にし、全職員で情報共有や協力した取組を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は95.9%（昨年度より0.1ポイント↑）で数値指標を5.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 生徒理解や配慮を要する生徒の対応等において、学級担任が一人で抱え込むことのないよう、さらにチームで取り組んでいく。また、教職員の共通理解のもと行事等に取り組むとともに、互いに進捗状況を確認する。
4 - (3) 学校における働 き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務 の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答70%以上	①出退勤記録の入力や適切なリフレッシュデーの設定により、勤務時間の意識化を図る。 ②諸会議録や連絡事項、学年・教科間で共有できる電子データを活用して業務の効率化を行う。 ③定期的にアンケートなどを実施し、業務改善を図ったり、校務運営委員会や学年主任会、職員会議を活用して、学校行事の円滑な運営や計画的な学年経営を行う。 ④部活動顧問を複数配置し、ローテーションで指導にあたる。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は87.8%で数値指標を17.8ポイント上回った。 【次年度の方針】 来年度も引き続き、拡充項目とする。 勤務超過時間が60時間を超える教職員に業務の効率化を呼びかけるとともに、タイムマネジメントの必要性を推奨する。また、ICT・さくら連絡網等を活用し、学校業務のペーパーレス化の推奨、諸会議等の効率化、計画的・能率的運営をさらに推進する。

5 - (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	○A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	①乗り入れ授業、小中情報交換会、児童生徒指導強化連絡会、あいさつ運動、お弁当の日、小学6年生の中学校訪問など、小中の連携を図り、取組の充実を図る。 ②地域学校園教職員研修の授業研究を行い、その指導法や成果等を共有し教科指導力向上を目指し、次年度に向けた課題の洗い出しをする。 ③学校ホームページや学校だより、「地域協議会だより」や「清原地域学校園だより」において、小中一貫教育や地域学校園の活動の様子を保護者や地域に周知する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は93.9%で数値指標を3.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 コロナ禍で中止になっていた行事等も徐々に実施されるようになり、引き続き、小中連携の取組を無理のないように効率的に継続していく。特に小中合同のあいさつ運動や小6中学校訪問などを通して、子どもたちの意識を高めていく。また、今後も、各種たよりやホームページ等を通して保護者や地域に向けたPR活動を行う。
5 - (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5 - (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒教職員、保護者の肯定的回答90%以上	①清原中学校地域協議会の協力を得て、図書館等のボランティアや校内環境整備活動等を展開しながら学校運営の充実を図る。(R5・75周年行事を意識した取り組み) ②各学年のクリーン活動やとびやま城址跡公園ボランティア清掃、学校敷地内の緑化環境整備をPTAや地域と協力して行い、運営の充実を図る。(R5・75周年記念行事を意識した取り組み) ③青色防犯パトロールや下校指導をPTAや地域協議会と連携して実施し、生徒の安全確保の協力を得る。 ④「地域未来会議」を実施し、清原地域の未来について生徒と地域、家庭と協議する場を通して、郷土を愛し地域の未来を創造しようとする生徒の育成に努める。 ⑤地域の教育力を生かした特色ある活動を学校だよりやHPなどで、積極的に情報発信する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は98.0%（昨年度と同じ）で数値指標を8.0ポイント上回った。保護者の肯定的回答は87.8%（昨年度より2.2ポイント↑）で数値指標を2.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 本年同様、校内環境整備作業を中心に地域協議会、PTAと連携を図って実施する。また、地域連携教員が主務者となり、「地域未来会議」や各種地域ボランティア活動を継続していく。それらの様子を学校だよりやホームページを用いて、地域や保護者に積極的に発信する。
6 - (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答100%以上	①毎月1回の安全点検を丁寧に、危険箇所の早期発見を心がけ、早期対応を図る。 ②来校者をチェックし、名札の着用を求めるとともに、校門を登下校時以外は閉めておく。 ③台風や地震、落雷、降雪などの災害発生前後に校舎内外の巡視を行い、危険回避につとめるとともに、危険箇所の早期発見・早期対応を図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は93.9%（昨年度より4.1ポイント↓）で数値指標を6.1ポイント下回った。 【次年度の方針】 月1回の定期安全点検や災害発生前後の安全点検を丁寧に、危険箇所の早期発見・早期対応を継続する。また引き続き、防犯カメラ等で来校者に対するチェックを行うとともに、登下校時以外の校門の閉鎖を徹底する。
6 - (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	①生徒が授業や家庭持ち帰りにおいて、タブレットを快適に使用できるよう適切に管理・運営する。 ②職員室の棚に書画カメラやDVDプレーヤー、CDラジカセ等を置き、管理簿を用いて紛失を防ぎ、定期的にメンテナンスをするなど、保管・整備を工夫する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は100.0%で数値指標を10.0ポイント上回った。 【次年度の方針】 授業の充実、業務の効率化にデジタル（タブレット、ミライム、校務支援システム、学習情報システム、さくら連絡網等）を有効的に活用する。そのためにICT支援員、ICT主任を中心に設定、保管、整備等を定期的かつ確実に行う。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答95%以上	①あいさつの大切さはもとより、あいさつの声が飛び交う明るい学校づくりの一端を担うという意識をもたせ、朝の会や帰りの会時、授業開始時・終了時、給食時のあいさつを習慣化させる。 ②教職員が自ら率先してあいさつを行う。 ③学年委員会を中心としたあいさつ運動を、週1回程度実施する。 ④校内での来客や、校外の交通指導等でお世話になるPTAや地域の方々にもあいさつができるよう促す。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は97.5%で数値指標を2.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 教職員が自ら率先してあいさつを行い、①の取組を中心に、生徒へのあいさつと会釈の励行を重点的に推進する。あいさつの大切さはもとより、あいさつの声が飛び交う明るい学校づくりの一環として担うよう意識を高める。また、定期的にあいさつ強化週間を設定し、生徒会と学年委員会を中心に、生徒を主体としたあいさつ運動を工夫する。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①生徒の委員会活動での自主的な活動を、掲示物やテレビ放送等で知らせ、自分の役割を果たすことやルールを守ることの大切さを理解させる。 ②全教職員の共通理解・共通認識のもと、きまりやマナーを守らせる指導を行い、できない生徒の言動を見逃さない指導を適切に行うことにより、規範意識を高めていく。 ③生徒が主体となって、きまりやマナーを守って生活する啓発活動を行う。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は95.8%で数値指標を5.8ポイント上回った。 【次年度の方針】 定期的に生活を振り返る機会を設定し、教員から良い行動を承認する。 教職員の指導だけでなく、生徒会活動を活性化し、本年度実施したように、生徒が主体となって、きまりやマナーを見直したり守って生活する啓発活動を行う。

小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	B 3 生徒は，家庭学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①各学年最初のガイダンスにおいて，具体的な家庭学習の仕方を指導する。また，学年だよりで保護者にも見守りを依頼し，家庭の協力を得る。 ②学習委員会が中心となり，自主学習ノート提出の呼びかけやチェックを行う。また年4回，自主学習ノートを毎日提出できた生徒の表彰や，優秀なノートの展示を行う。 ③自主学習ノートの確認を朝の時間を利用して学年体制で行う。未提出の生徒や取組が不十分な生徒には，学級担任が学習の仕方等を個別指導する。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は80.0%で（昨年度より9.8ポイント↓）数値指標10.0ポイント下回った。 【次年度の方針】 次年度も引き続き拡充項目とする。 生徒の肯定的回答は4年連続で低下している。家庭学習への意欲を向上させるために学習委員や学級担任と連携しながら，効果的な学習方法や自分に合った学習方法を見つけさせ，継続的かつ粘り強く取り組ませて学力向上を目指す。保護者会や懇談等の機会に，家庭での適切な働きかけについて確認・共有する。
	B 4 生徒は，緑化活動やクリーン活動に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒生徒の肯定的回答90%以上	①緑化委員会による花壇の整備や水やり，中庭の緑化環境を充実させる。また，緑化委員の取組として校内掲示板で周知する。 ②学年ごとの校内クリーン活動を年2回，とびやま城址跡清掃ボランティアを行い，事後の振り返りを行い，環境美化の意欲を高め，生徒がより主体的に活動が行えるように働きかける。 ③特色ある学校づくりの一端として，1学年の総合的な学習の時間における草花栽培活動を充実させ，生徒の自主的・主体的活動を促すようにする。 ④各クラスで植物や動物を育てる。（教室で育てるか，クラス花壇をつくり，日直管理にして全員が関わるようにする。）	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は72.6%（昨年度より16.8ポイント↓）で数値指標を17.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 ①②③④の諸活動を緑化委員会や美化委員会の活動を中心に強化していく。校内クリーン活動や美化コンクールなど，全校生徒で活動する取組を継続，強化し，地域協議会やPTAと連携した活動も継続していく。
	○B 5 生徒は，交通ルールやマナーを守って安全に登下校している。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	①年度初め，新入生に向けた交通安全指導の徹底と交通安全教室を年2回実施し，交通安全への意識を高める。また，定期的に登校指導や日頃の交通マナーを確認するとともに，生徒の通学状況及びLRT開通に伴う危険箇所の把握に努める。 ②部活動終了後の日々の下校指導や，PTAの年間を通した下校指導，定期的な自転車点検を行うことで，安全に登下校ができるよう指導する。 ③交通安全委員が帰りの会で反射ベスト点検やヘルメットのあごひも点検を行い，安全に登下校できるよう呼びかけをさせる。また，「交通安全週間」を設けることで，改めてマナーや危険箇所を振り返られるよう指導する。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答は87.8%（昨年度より10.2ポイント↓）で数値指標を2.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 引き続き，拡充項目とする。年2回の交通安全教室を実施し，交通安全への意識を高めるとともに，月1回の登校指導や日頃の交通ルールやマナーを確認し，生徒の通学状況及び危険箇所等の把握に努める。特に，年度当初に新入生に向けた交通安全指導を強化する。 交通安全委員の取組を継続し，生徒が安全に登下校できるように呼びかけを行うとともに，下校時の反射ベスト着用の徹底を図る。 また，生徒が交通ルールを守らず登下校している姿が見られたら，放送等で呼びかけをし，自分たちの交通マナーや危険箇所を改めて振り返るように指導する。

【総合的な評価】（「小中一貫教育・地域学校園」に関する評価内容は○）

《全体》27項目の目標数値指標のうち18項目が指標を達成し，市中学平均を上回った項目は63項目のうち45項目であった。

《生徒》17項目の目標数値指標のうち11項目が指標を達成した。市中学校平均とは±2ポイント以内でほぼ同じような結果であった。目標数値指標を達成できなかった6項目のうち「英語を使ってのコミュニケーション」「デジタル機器等の活用」「家庭学習の習慣化」「緑化活動への取り組み」は目標指標より10ポイント以上低い結果となった。特に「デジタル機器等の活用」「家庭学習の習慣化」は重点項目でもあるため，タブレットの有効活用や自主学習ノートやA Iドリルを活用し，一歩踏み込んだ家庭学習の指導をして

《教職員》9項目の目標数値指標のうち7項目が指標を達成した。市の平均も22項目中，20項目が上回った。特に「業務の効率化」は87.8%で市の平均より11.2ポイント上回った。今後も「働き方改革」の趣旨を踏まえて，業務改善，効率化，働きやすい職場環境づくりを心がけたい。

《保護者》重点項目5項目中，経年比較できる項目はすべて昨年度を上回った。市の平均を上回った項目は15項目中，9項目であった。「家庭学習の習慣化」が昨年度68.2%，本年度69.1%で低水準である。保護者会や懇談等の機会に，家庭での適切な働きかけについて確認・共有していきたい。

7 学校関係者評価

地域協議会等での意見、アンケートの結果を以下にまとめた。随所に、学校を応援してくださる温かい思いが感じ取れた。

1 「令和5年度 清原中学校 学校評価書」・「令和5年度うつのみや学校マネジメントシステム全体アンケートの肯定的回答割合比較表」等の説明や学校長の「令和6年度清原中学校学校経営方針」について

- ・全体的によい、誇らしい評価であったと感じている。よい学校づくりができていていると思う。
- ・予測困難な時代、想定外の事件事故に対応できる資質は大切だと思う。
- ・教育目標に「たくましく未来を切り開く生徒～挑戦する人」が追加され、とてもよいと思います。これから時代に不可欠なことだと思うので、ぜひ実践してください。想像力豊かなたくましい生徒が育つことを期待します。どんな挑戦をするのか見守っていきたいです。
- ・「G O A L L O U T」ステッカーを作りましょう。全力を尽くし、活性化する生徒を見てみたい。
- ・なかなか学校経営についてやアンケート結果を見る機会がないので、じっくり学校評価書を見たいと思います。
- ・「一生懸命はかっこいい」学校生活でしか味わうことのできない感動に出会いながら、成長してほしいと切に思います。
- ・新しく加わった学校教育目標は時代に合ったものであり、よいと思う。
- ・目標指数に達しているものが多く、大変よい結果だと思う。A 6, 7, 8, 9, B 4 は肯定的回答割合が8割をきっているが、実際、生徒は取り組んでいることが多く、もっと高い割合が出てもよいのではないかなと思う。
- ・教職員の評価が高いのは意識の高い証拠なのですばらしいことだと思います。ただ、見えていない部分もあるのでは？という不安もあります。

2 本校生の様子について

- ・授業参観に行ったとき、とても熱心に授業を受け、楽しそうに生活していました。教職員の指導にもよると思いますが生徒たちが意欲をもって何事にも臨んでいくことが理想です。
- ・学校に来る機会が多いですが、生徒たちはよく挨拶をしてくれています。
- ・礼儀正しく、あいさつがしっかりできている印象があります。
- ・子どもから時々クラスのことを聞きますが、男女仲よさそうな様子が伝わってきます。また、日々のホームページも楽しみにしています。
- ・自転車通学登下校時の安全指導は行っているかと思いますが、ゆいの杜、清原台、板戸あたりで気になったことがあります。LRT停留所（グリーンスタジアム前）付近でキャノンの社員が大勢、歩道で信号待ちしているので通るとき危険では？野高谷交差点を西に坂道を上がるとき、右左両側から上がっていくが、下ってくる自転車と接触の可能性がある。危険箇所の見える可として標識等が必要では？
- ・先日、横断歩道を渡り終えた清中生が車に深々とお辞儀をしている光景を見て、学校・家庭教育が行き届いているなと感心しました。
- ・礼儀正しく元気な子どもが多い印象である。また、自分の意見をはっきり伝えることのできる生徒が一定数いると感じている。

8 まとめと次年度に向けて（「小中一貫教育・地域学校園」に関する評価内容は○）

アンケート結果、学校関係者評価の結果を踏まえ、次年度の考え方、方向性を以下のようにする。

○活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進を目指して、「前向きな気持ちをもって、粘り強く」をモットーに、生徒を前面に出し、見守り・見届けながら①生徒と教職員に「目標を持って、中学校生活を送ってほしい（生徒の教育に当たってもらいたい）」②「出会いを大切にし、誰もが安心して生活してほしい」③「清中生である（清原中に勤務している）という自信と誇りを持ってもらいたい」の3つの願いの実現に向けて師弟同行の教育を実践してきた。

また、創立75周年という節目にあたり、創立75周年関連事業を核とした生徒の主体的な活動（記念式典での生徒発表、清原の杜を活用した学習活動、地域未来会議の充実、地域行事へのボランティア参加等）を通して、これまでの清原中の歴史を振り返り、本校、本地域の教育資源を生かした新たな歩みへの機運の醸成及び取り組みの推進を図ってきた。

○これからの新しい時代は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により社会は急速に変化し、予測困難な時代となってくる。生徒は、これから情報化の一層の進展などによる、急激な時代の変化に向き合い、生き抜いていかねばならない。そこで次年度以降、現在の教育目標「活力ある生徒 よく考え、創造する生徒 豊かな心を持ち、思いやりある生徒」に新たに「たくましく未来を切り拓く生徒」を加え、様々な社会的変化を乗り越え、自らの夢の実現や社会貢献への志を持つ生徒、多様な人々と協働し、持続可能な社会の創り手となる自覚と責任を持った生徒の育成を図っていききたい。

活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進

活力ある生徒の育成が、活力ある学校づくりにつながることや地域の発展に貢献することから、次年度も「活力ある生徒の育成を目指した活力ある学校づくりの推進」を掲げることとした。また、令和6年度学校スローガンを「GO ALL OUT～一生懸命はかっこいい～」とする。「GO ALL OUT」とは「全力を尽くして行う」という意味、令和6年を新たな挑戦の年とし、「どんな状況にも負けず目標達成に向け、一生懸命頑張ってほしい、そして、授業や学校行事、部活動などを通して、その頑張る姿こそが、かっこいいと自他ともに認め合い、学校生活でしか味わうことのできない感動に出会いながら、ともに成長してほしい」という思いを込めて設定した。以上のことを踏まえ、以下の項目に重点を置くことで生徒・教

（1）教職員の和を基調とし、「教師が変われば、生徒も変わる」を信条に、師弟同行の実践を踏まえ、「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導・支援の充実を図り、望ましい人間関係の育成に努める。

○（2）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、考え、表現する学び合い活動や焦点化した振り返り活動を取り入れるなど、生徒一人一人の確かな学力の向上に努める。

（3）緑に恵まれた「清原の杜」の環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努める。

（4）生徒理解を基盤に、道德教育・人権教育・発達段階に応じた教育相談の充実と各教科、総合的な学習の時間、特別動等の特質に応じた指導の深化を図り、生徒の活力や豊かな人間性・社会性の育成に努める。

（5）一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、進路に関する情報を収集・活用し自らの生き方を探求するとともに、進路の選択・決定ができるよう、学校、家庭及び地域社会との連携を密にしながら、指導・支援に努める。

（6）学校ホームページを効果的に活用し、積極的な情報発信に努める。家庭や地域社会等との連携を一層深めるとともに、地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。

（7）教育公務員としての服務規律の厳正やコンプライアンスの徹底に努める。

（8）教職員の働き方改革の推進に向けて、同僚性を高め、生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減のために、日課の工夫やICTを活用した業務の効率化や勤務時間の適正化を図る。